

入学式 式辞

2019. 4. 8

春のやわらかな風を全身で感じる事ができる今日のよき日、多数のご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成31年度の入学式を、かくも盛大に挙行できますことは、生徒並びに教職員一同大きな喜びであります。

ただ今、入学を許可しました360名の皆さん、入学おめでとう。皆さんを見ていると世阿弥が使い始めたと言われる「花のある人」という表現がぴったりだと感じます。それは、皆さん一人一人の心の中で、夢や希望、喜びの見事な花が咲いているからでしょう。はつらつとした皆さんを本校に迎えることができ、とてもうれしく思います。

松山北高校は、明治33年に設立され、今年で119年目を迎える県内屈指の伝統校です。多くの先達が各方面で偉大な足跡を残しており、本校の歴史を紐解く度に、身が引き締まる思いがいたします。どうぞ、本校で学べることに誇りを持ってほしいと思います。

さて、高校生活の出発に際して、皆さんにお願いしておきたいことは、生涯にわたって社会貢献できる人になるために、文武心の確固とした土台づくりをしてほしいということです。

そのためには、スタートの基礎集中訓練が何よりも大切です。およそ物事に上達しようとするときに、科学的に組織されていない方法で漫然と訓練しても効果はあがりません。あなたがたが、自らに課す短期間の基礎訓練に没頭できるかどうか、そこが高校生活の分岐点、分水嶺となるのです。しかも、それは「自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する」、すなわち「自律」したものでなくてはなりません。ひとたび方向性を誤った高校生活においては、青春の情熱とエネルギーは、空転、空費されて、春秋に富んだ皆さんの才能は、自分にとって重要性の低いもののために惜しげもなく消費されてしまいます。明日へのずるい近道はなく、ぶれない体幹、人生を乗り切っていく自分なりのフォームを辛抱強く作ってゆくしかありません。犬かきではクロールに永遠に追いつかないのです。

また、基礎集中のための心構えについて、学問を例に挙げて述べておきます。勉強を、成績をよくするための、あるいは進学のための手段と考えることから自分を解放して、柔軟な新鮮な気持ちで、今からやることそれ自体を目的とすることが大切です。手段と考える限りは、公式や文法や解釈だとか、それだけしか勉強の対象になりません。そういう文法などが、なぜ必要なのかといえば、学問や芸術の中味にぶつかり、その世界を楽しむためなのです。

夏目漱石の「三四郎」の中で「ある男」が三四郎に語りかける形をとりながら、漱石自身の思想を代弁させていると思われる表現があります。

『「熊本より東京は広い。東京より日本は広い。日本より……」で一寸切ったが、三四郎の顔を見ると耳を傾けている。「日本より頭の中の方が広いでしょう」と云った。「囚われちゃ駄目だ。』

深くて広い応用力のある基礎を養ったという事実の上に立って、その上に築き上げていく学問や芸術の世界は、ゆったりとした実に楽しいものとなります。自らの無限の可能性を信じて努力を継続してもらいたいと思います。

保護者の皆様、本日は、おめでとうございます。お子様は、これから一步一步自立への道を歩むこととなりますが、本校を卒業するときには、変化と流動の時代を「たくましく生き抜く力」を身に付けられるよう、私たち教職員は、生徒たちの豊かな未来に向けて、精一杯力を注いでまいります。

最後に、昨年、ジャーナリストの池上彰氏が、えひめジョブチャレンジU-15事業において、本県の児童生徒のために寄せてくださったメッセージを紹介し、新入生の皆さんへのエールとします。

「君たちはどう生きるか」

これは、大人になっても自問する問いかけです。限られた人生をよりよく生きるためには、どうしたらいいか。人間は、試行錯誤を繰り返す中でしか答えを得られません。新しいことに挑戦し、新しい答えを見つけてください。

平成三十一年四月八日

愛媛県立松山北高等学校長 長井 俊朗